

第1学年5組 国語科学習指導案

学校名

1. 単元名 伝統文化に触れる「竹取物語」 5 / 8 時間

2. 授業のねらい

本単元は、「かぐや姫」の物語として広く知られている作品であり、中学校での古典の導入教材としてふさわしいものである。古人のものの見方・考え方にふれ、今と昔の相違点や今も昔も変わらないものについて考えさせることにより、自分自身の考えを広げることがをねらいとしている。

したがって本単元では、古典の原文に触れ、音読、暗唱などの学習活動により、歴史的仮名遣いに慣れ、古文独特の歯切れの良いリズムを味わわせることにより古文に対する興味・関心を培いたい。

教科書には、翁が竹の中から女の子（後のかぐや姫）を見つける冒頭場面と、五人の貴公子のエピソード、そして、かぐや姫が地上を離れる際の場面とその後の帝の行動が掲載されている。教科書に載っていない部分については補助資料を与え、全体のあらすじについても確認し、物語自体の面白さも味わわせたい。

作品の持つ魅力の一つとして登場人物の人物像の面白さが挙げられる。かぐや姫や五人の貴公子像から、現代にも共通する人物像を読み取り、古典作品を身近に感じることによって、古典への興味・関心を持たせ、学習に取り組ませたい。

平成30年度の全国学力・学習状況調査における「読む能力（古典）」の結果によると、本校生徒には「登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てる」ことに課題があることがわかった。それを受け、指導に当たっては、特に物語の結末部に着目し、登場人物の言動から、それぞれの思いに迫らせていく。天上界に帰還するかぐや姫の心情については、交流の場を通して、他者の考えとの相違点や共通点に気付き、自らの考えを形成していく活動を行う。あらすじや原文に根拠を求めることで、かぐや姫の心情を説明する活動を設定し、かぐや姫の思いについて、自分の考えを整理し、文章にまとめることができるようにさせたい。

【本時の主眼】

かぐや姫の翁・媼、帝とのエピソードを人物相関図にまとめ、かぐや姫の台詞から、そこに込められた思いを読み取る活動を通して、別れの場面でのかぐや姫の心情について3つの要素を網羅して書くことができる。

3. 単元計画 ⇒ 別紙、単元シートで提案。

4. 上記の一連の学習で目指すゴール

人間の営みには美しくあたたかな愛があること、また欲しいものを手に入れるために虚言や束縛をするという人間の醜い心を、作品中の人物の行動や台詞を根拠に読み取ることができる。また、美しい愛や、人間の中にある醜く汚れた心は今も昔も人間の中にあり、変わらないということを読み取ることができる。

5. 児童生徒の既有知識、学習の予想

本学級の生徒は、音読、暗唱などの学習活動により、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して音読することができる。また、前時までに学習した伊曾保物語では、古文で描かれた作品を読み、現代語訳と対応させながら、内容を理解する学習をしている。本授業では、人物相関図を作成し、かぐや姫の台詞や行動をもとに、翁・媼と帝に対する愛惜の情、別離の悲しみを読み取らせる。その際、現代語訳からその言葉の意味を捉えることはできても、言葉の本質に迫ることは困難であると考えられる。そこで翁・媼、帝とのエピソードを振り返らせながら、かぐや姫の言動からかぐや姫の思いを読み取らせたい。また、本授業を通して、感情を持たない天人と、豊かな感情を持つ人間とを比較し、人間のもつ感情の多様性や素晴らしさに気づくことで、次時の、物語を通して作者が読者に伝えたかったメッセージについて考える活動の動機付けとなることが期待できる。

6. 期待する解の要素（本時の最後に生徒が上記の課題に答えるとき、話せるようになってほしいストーリー、答えに含まれてほしい要素。本時の学習内容の理解を評価するための基準）

課題【別れの場面からかぐや姫の心情を読み取ろう】の答えとして期待する解の要素

- ・大切に育ててくれた翁と媼への感謝の気持ちや、月に帰らなくてはならないことを詫げる気持ちと、二度と会えなくなるという別れを惜しむ感情
- ・手紙を交わし合った帝との別れを悲しみ、帝の引き止めに応じられなかったことへの心残り
- ・別れを惜しむ場面での心情を理解しない天人の発言を諷める気持ち

| A | B | C |
|--|--|--|
| ○別れに際してのかぐや姫の心情について、3つの要素全てを網羅し、かぐや姫の心情を書けている。 ○心情を捉える際に、根拠を明確に書けている。 | ○別れに際してのかぐや姫の心情について、3つの要素全てを網羅し、かぐや姫の心情を書けている。 | ○別れに際してのかぐや姫の心情について、3つの要素のうちいずれかが不足している。 ○かぐや姫の心情について書けている。 |

7. 学習のデザイン

| 時間 | 学習活動 | 支援等 |
|--|--|---|
| 5分 | 1 物語の結末部の本文を音読し、かぐや姫の別れの場面を捉える。 2 本時のめあてを確認する。 | ○歴史的仮名遣いの読み方や、文節の切れ目など古典の基礎知識をふまえ、正確に音読させる。 ○物語の内容を簡単に振り返らせ、黒板に学習課題を示し本時の課題をつかませる。 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <課題> 「別れの場面からかぐや姫の心情を読み取ろう」 </div> | | |
| 10分 | 3 別れの場面より、翁・媼、帝、天人それぞれの行動をもとに、かぐや姫に対する思いを人物相関図に書き込む。 | ○教科書本文やカラーページ、ヒントを手がかりに書き込ませる。 ○かぐや姫への心情を記入したワークシートを電子黒板に映し出し、友達のとらえた考えを参考にして、自分の考えを見直させる。 |

| | | |
|-----|---|--|
| 15分 | <p>4 天人への台詞「もの知らぬこと、なのたまひそ。」より、「もの知らぬ」は「～する心がない」とし、「～」に当てはまる言葉を、発言の後のかぐや姫の行動をもとに考え、短冊に記入していく。</p> | <p>○「もの知らぬこと」を「～する心がない」とすることで、古文における「もの」が情を表す言葉であることを捉えさせる。 ○本文から根拠を読み取り、考えた言葉を、枚数を限定せず短冊に書かせる。</p> |
| | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>予想される生徒の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・別れを惜しみ悲しむ心 ・永遠の別れに寂しさを感じる心 ・地上で生活していきたい心 </div> | |
| | <p>5 短冊の言葉が、翁・媼、帝のどちらへ向けたものかに分けて、模造紙に貼り付けさせ、班で交流する。</p> | <p>○短冊に書いたことについて、根拠をもとに理由を述べながら、模造紙に貼り付けさせる。</p> |
| 5分 | <p>6 交流したことを全体で発表する。</p> | <p>○発表の際、模造紙は電子黒板に映し出し、全体に見えやすいようにする。 ○発表の際、疑問に思ったところは積極的に質問させ、自分の考えを深めさせる。 ○他者の考えを聞く中で、自分の考えの深まりや、新たな気づきなどをワークシートに記入させ、発表させる。</p> |
| 10分 | <p>7 班での活動や発表を踏まえ、別れの場面でのかぐや姫の心情を人物相関図をもとに想像して、150～200字程度で書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>予想される生徒の答え</p> <p>おじいさん、おばあさん、ここまで大切に育ててくれてありがとうございます。月の都へ帰らなければならなくてごめんなさい。最後まで寄り添うことができずにすみません。</p> <p>手紙のやり取りをしてくれたこと、月に帰らせないように、兵士に守らせてくれたこと、感謝をしている。それに応じられなかったことが悲しい。</p> <p>きちんとお別れをしたかったから、天人にはせかさずに待つてほしかった。 (174字)</p> </div> | <p>○記入したワークシートをもとに、別れの場面でのかぐや姫の心情を、かぐや姫の立場になって、150～200字程度で書かせる。</p> |
| | <p>8 単元シートに、本時の振り返りを記入し、次時の学習内容を確認する</p> | <p>○本時の学習を振り返り、本時と次時の学習内容を関連付けるため、単元シートを用いて次時の学習内容を確認させる。</p> |